

平成28年度施政方針

はじめに

平成28年度予算関係議案の審議に先立ち、私の市政運営の基本姿勢について申し上げます。

私にとりまして、平成24年11月に市長という大役を拝してから、市長としての4年の任期も、残すところ1年足らずとなりました。平成28年は、市長任期のまさに仕上げの年であり、初心忘るべからず、その責任の重さを痛感いたしております。

地域再生 「三つの再生」と「二つの課題」

私は、市長就任以来、「経済の再生」、「コミュニティの再生」、「市役所の再生」、この「三つの再生」に加えまして、「健康都市づくり」、「教育力の向上」の「二つの課題」を行政運営の大きな柱とするともに、「夢をかたちにして チーム新居浜」を掲げ、ふるさと新居浜の総力を結集して、地域再生への取組を進めてまいりました。

振り返りますと、就任1年目の平成25年度は「再生へのスタートの年」と位置づけ、市民、企業をはじめ最前線で活躍する皆さんの現場の声を広く市政に反映するため、「政策懇談会」を設置し地域再生に着手いたしました。

そして、就任2年目の26年度は「再生への実行の年」として、政策懇談会からいただいた提言をもとに、「新居浜ものづくりブランド」の全国展開や着地型旅行商品の開発などの産業強化のほか、新たな自治会交付金制度の創設や防犯灯LED化事業等、地域再生への具体的施策を実行してまいりました。

さらに、就任3年目の27年度は、「再生への加速の年」と位置づけ、「経済」、「コミュニティ」、「市役所」の「三つの再生」に加え、がん検診の無料化、健康づくりポイント事業やノルディックウォーキング大会の実施のほか、放課後まなび塾や放課後児童クラブの充実など、新たな再生へのテーマである「健康都市づくり」と「教育力の向上」の「二つの課題」についても具体的施策を展開し、さらなる地域再生への取組を進めてまいりました。

施策推進にあたっては、政策懇談会をはじめ、各界各層の皆様との対話を通じて、市民の皆様のお意見や御提言を市政に反映するという、私が目指します

「チーム新居浜」による地域再生への基盤が確実に整ってきたと強く実感いたしております。

地域再生から地方創生へ 「再生から創生への躍進の年」

このように、「三つの再生」と「二つの課題」をテーマとした地域再生への取組を推進していく中、一昨年12月、国においては、「人口減少問題の克服」と「成長力の確保」を図るため、我が国の人口の将来展望を示す「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」と、それを踏まえた今後5か年の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定しました。さらに昨年6月には、地方創生の深化と地方や中小企業までその成果をゆきわたらせるローカル・アベノミクスを実現するための「まち・ひと・しごと創生基本方針2015」が示されました。

平成27年は、まさに地方創生元年でありました。本市におきましても、これら国の地方創生への取組を受けまして、人口減少とそれに伴う地域経済の縮小という最重要課題を克服するため、昨年12月に、本市人口の将来展望を示す「新居浜市人口ビジョン」とその実現に向けた今後5か年の目標や具体的施策を示す「新居浜市総合戦略」を策定いたしました。策定に当たりましては、市民各界、各層の皆様にご参画いただいている「政策懇談会」のほか、産業界、金融機関、労働団体、学識経験者の皆様からなる「地方創生有識者会議」や、市議会特別委員会においてもご審議をいただきました。さらに、広く市民の皆様から地方創生に関する提案を募集するとともに、私自身も各種団体と意見交換をさせていただき、皆様のご意見、ご提言を反映した市民総参加の「新居浜市総合戦略」が策定できましたことに対しまして、厚く感謝を申し上げます。

今後5年間、この総合戦略に基づく施策を確実に実施し成果に結びつけていくことが、新居浜市の将来を大きく左右するといっても過言ではありません。

国の総合戦略は、地方に「しごと」をつくり、その「しごと」が「ひと」を呼び、「ひと」が新たな「しごと」を呼び込むこの好循環が「まち」に活力を取り戻す、いわゆる、まち・ひと・しごとの創生により人口減少問題の克服と成長力の確保を実現するという地方創生を目指しております。私は市長就任以来、三つの再生と二つの課題をテーマに掲げ、地域再生への取組を推進してまいりました。私がこれまで実行してきた地域再生の取組と国が目指します地方創生とは、その目的は異なるものではなく、私が実行してきた「経済の再生」は「しごとの創生」に、「コミュニティの再生」は「まちの創生」に、そして

「健康都市づくり」と「教育力の向上」は「ひとの創生」へとつながるものがあります。

私は、来る平成28年度を「再生から創生への躍進の年」と位置づけ、地域再生への取組を総合戦略が目指す地方創生へと深化させてまいります。そして、新居浜市総合戦略に掲げます「住みたい、住み続けたい あかがねのまち」の実現を目指してまいります。

持続可能なまち 新居浜の推進 「新居浜市人口ビジョン」

本市が目指します地方創生について申し上げます。

まず、「新居浜市人口ビジョン」に示しております本市が目指す四つのまちの将来についてであります。

一番目は、『若い世代の「働きたい」「働き続けたい」を叶える 稼ぐ産業都市』であります。進学、就職等で市外へ出た方が、ふるさと新居浜へ戻って来られるよう雇用の受け皿や、ずっと働き続けたいと思える働きやすい就労環境を確保するとともに、域外から獲得したマネーを地域内循環につなげ、所得、消費の向上につながる稼ぐ「産業都市」を目指します。

二番目は、『「住みたい」「住み続けたい」を叶える 選ばれる定住都市』であります。本市は、豊富な自然環境に恵まれ、住友諸企業、地場中小企業など多くの産業集積があり、救急医療体制や医療施設も充実しています。また、「主婦が幸せに暮らせる街」ランキングでは、全国第9位に選ばれるなど、住みやすいまちとしても評価されています。これら本市の特性・まちの強みをさらに充実させ、対外的に広く情報発信することによって、市外、県外の方が「住みたい」と思える、住んでいる市民がずっと「住み続けたい」と思える、積極的に選ばれる「定住都市」を目指します。

三番目は、『「子どもをもう1人産み、育てたい」を叶える 子たくさん都市』であります。本市の合計特殊出生率1.8は、四国内で最も高くなっています。しかしながら、市民が望む理想の子ども数2.6人とまだまだ開きがあることから、その希望が叶えられるよう出産・子育て支援施策の充実を図り、もう一人産みたい、育てたいと思える「子たくさん都市」を目指します。

四番目は、『中高年の「元気で長生きしたい」を叶える 健康都市』であります。本市の65歳健康寿命は、全国や愛媛県平均と比較して、1年程度短くなっています。この現状を改善し、元気な中高年の方々が、生涯を通して社会や地域

のために活躍できる「健康都市」を目指します。

「産業都市」「定住都市」「子だくさん都市」「健康都市」これら四つのまちづくりを推進し、将来にわたり持続可能なまち 新居浜を築いてまいります。

次に、本市人口の将来展望についてでございます。本市人口は、昭和55年の13万2千人をピークに減少し続けており、このままでは平成42年には10万5千人、平成52年には9万4千人、さらに平成72年には7万5千人まで減少するという厳しい現実が待ち受けています。私は、人口は都市の勢いを示す大きなバロメータであると常々考えております。人口が減少することは、即ちまちに勢いがなくなることです。

少子高齢化の進行に伴い、今後も日本の総人口が減少することは避けては通れません。しかし、この厳しい現実を目の当たりして、座して待つのではなく、あらゆる可能性に挑戦する姿勢が求められています。本市将来人口は、まず、25年後の平成52年まで10万人を維持することを目指します。さらに、45年後の平成72年は、推計人口7万5千人に対して、1万5千人増の9万人を目指してまいります。

そのためには、達成すべき二つの大きな前提条件があります。一つは、人口の自然増減の改善、すなわち出生率を上昇させることであります。現在、四国一の合計特殊出生率1.8を、平成42年には2.0、さらに平成72年には2.3まで上昇させていかねばなりません。

もう一つは、社会増減の改善であります。本市では、長らく市外への転出者数が市内への転入者数を上回る転出超過の状態が続いています。目標人口を維持するには、15年後の平成42年までに転出者数と転入者数を均衡させなければなりません。

人口の自然増減と社会増減の改善という二つの条件を達成することは、容易な道程ではありません。しかし、これら自然増減と社会増減の改善は、単に総人口の減少を食い止めるだけに留まらず、年少人口、生産年齢人口が将来にわたり安定する人口構造へと変革し、少子高齢化から脱却する軌道を描くことにつながってまいります。持続可能なまち 新居浜を築いていくうえで不可欠なものであり、地域の総力を結集して乗り越えていかなければなりません。

住みたい、住み続けたい あかがねのまちを目指して「新居浜市総合戦略」

次に、本市が目指すまちの将来と人口の将来展望を実現するための具体的取

組、すなわち「新居浜市総合戦略」について申し上げます。

総合戦略では、将来目標人口の達成と「住みたい、住み続けたい あかがねのまち」を目指して、四つの基本目標を掲げ施策展開を図ってまいります。

基本目標1「新たな雇用を創り出し、地元産業を振興します」

基本目標1では、「ものづくり産業の振興」、「新産業の創出、創業への支援」、「地元産業の振興」、「住友各社との連携強化と企業誘致の促進」の施策を展開し、経済の再生につなげてまいります。特に、新居浜ものづくりブランドをはじめ本市ものづくり企業の販路開拓や新事業展開への取組を、産官学金が連携して支援してまいります。また、大学生等への就職説明会やインターンシップへの支援など、ものづくり人材確保のための取組を進めます。さらに、金融機関等との連携を強化し意欲ある創業に対する支援を充実してまいります。国においては、「地方創生加速化交付金」を含む「一億総活躍社会」実現に向けた緊急対策を柱とする3兆3千億円の補正予算が成立いたしました。この加速化交付金を最大限に活用した施策を実行するための補正予算を、今議会に追加提案する予定といたしております。

基本目標2「居住地・観光地としての魅力を高め、定住人口・交流人口を拡大します」

基本目標2では、「移住・定住の促進」、「交流人口の拡大」の施策を展開してまいります。特に、全国でも初の取組となります企業城下町版C C R Cの導入について、協議検討するための推進協議会を早期に設置し、基本構想の策定に着手してまいります。さらに、新居浜市の魅力を発信するシティプロモーションにも取り組んでまいります。

また、本市発展の礎であります別子銅山近代化産業遺産を活用した観光振興による交流人口の拡大、さらには本市出身者のUターン促進や本市への定住促進に対する取組は、経済の再生のみならずコミュニティの再生にもつながる取組であります。これら、新たな雇用創出や移住・定住を促進することによりまして、将来人口展望の前提条件であります社会増減の改善を図ってまいります。

基本目標3「浜っ子を増やすため、結婚・出産・子育て支援を充実するとともに、健康長寿社会を実現します」

基本目標3では、「少子化対策の充実」、「子育て支援の充実」、「健康寿命の延伸」の施策を展開してまいります。少子化対策、子育て支援の充実によりまして、出生率を引き上げ、将来人口展望のもう一つの前提条件であります

自然増減の改善につなげなければなりません。また、健康寿命の延伸は、私が目指します健康都市づくりの大きな命題でもあります。さらに、安心して子育てができるまち、いくつになっても安心して暮らしていくことができるまちを地域が一体となってつくりあげるには、何よりも地域コミュニティの再生が必要です。従来の縦割りの地域づくりではなく、地域に関わる団体が連携し、地域の課題を自ら解決しようとする協議会型の自主組織による持続可能な新たなまちづくりを進めてまいります。

基本目標4「市域を越えた連携を進め、地域特性を踏まえた時代に合ったまちづくりを推進します」

基本目標4では、「新居浜・西条・四国中央市の三市連携の推進」、「コンパクトなまちづくりの推進」、「住民が主体となったまちづくりの推進」、「安全・安心のまちづくりの推進」、「芸術文化、スポーツの息づくまちづくりの推進」の施策を展開してまいります。特に、三市連携では、新居浜市、西条市、四国中央市の副市長で構成する東予ものづくり連携推進協議会を設立して、三市の情報発信・PR事業等を実施することといたしております。また、合同就職説明会や技術シーズ展示会については西条市と、サイクリングイベントについては四国中央市と連携して実施するなど、政策ごとに三市が連携して地方創生の取組を推進してまいります。

これら四つの基本目標に向かって、地方創生への取組を推進することにより、「ひと」すなわち人材、「しごと」すなわち企業の価値を高めていかなければなりません。さらに、ひと、しごとの価値が高まることは、「まち」すなわち新居浜市の価値を創造するという好循環を生み出し、選ばれる定住都市 新居浜へとつながるものであります。

今一度、市民、企業の皆様がそれぞれのお立場で、自らの価値創造について考え、市民価値、企業価値の向上に取り組んでいただくことをお願いしたいと思います。そして、「チーム新居浜」で一体となって地方創生に取り組むことにより、まちの価値すなわち「新居浜の誇り」を創造していこうではありませんか。

今、まさに 「百尺竿頭に一步を進む」

百尺ある長い竿の最高点、つまり、チーム新居浜の総力で総合戦略を策定するところまで到達することができました。しかし、それに満足することなく、計画成就に向け、事業推進へと歩みを進めていかなければなりません。地方創

生の取組はこれからが本番です。常に弛まぬ努力と向上心を持ち、地方創生を成し遂げ、このふるさと新居浜を未来に継承していかなければなりません。それが私達に与えられた大きな使命であります。

じきょうやまず
「自彊不息」

「自ら努め励み、前進していく」という先人から脈々と引き継いできた新居浜伝統の精神であります。私は、今の新居浜を築き上げたこの精神を、今一度自ら実践し、地方創生を成し遂げてまいります。どうか、地方創生成就の高い志を「チーム新居浜」全員で共有し、ふるさと新居浜の更なる発展と地方創生の実現に向けて挑戦していこうではありませんか。

未来は与えられるものではなく、創るものであります。

志あるところに、必ず道は開かれます。

以上、新年度における市政運営の基本姿勢について申し上げます。

引き続き、主要施策の概要につきまして、第五次新居浜市長期総合計画に掲げる6つのフィールドごとに、順次ご説明申し上げます。